

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月実施)	総合評価 (3月31日実施)			
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等		
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。 カリキュラム・マネジメントを推進し、協働的に課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。 特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。 	<p>①課題発見能力、批判的思考力を育成し、学習意欲と学力を向上させる。</p> <p>②学校行事や校外学習を通して企画力、社会性、協働性等を育成する。</p>	<p>①・指導と評価の研修を行い年間指導計画作成に活かす。</p> <p>・新旧教育課程の整理、進路実現に向けた履修指導を行う。</p> <p>・分野横断の視点で教科指導を行い、総合的な探究の時間との有機的な連携を図る。外部連携を推進する。</p>	<p>①・効果的な履修指導により学習意欲、学力は向上したか。</p> <p>・生徒アンケート等による形成的評価により、課題発見能力、批判的思考力は育成できたか。</p>	<p>②特別活動等において企画力、社会性、協働性を育成できたか。</p>	<p>①・新学習指導要領に基づく指導と評価のあり方について、研修会を行い教員の理解を深めた。</p> <p>・新旧教育課程が混在する科目を整理し、適切な教育課程を編成するとともに効果的かつ効率的な履修指導を行った。</p> <p>・総合的な探究の時間について、組織的な改善に取り組み、それを全ての教科における批判的思考力の育成に結びつけた。</p>	<p>②学校行事や校外学習を企画する上で、社会性や協働性を育成することを旨とした目的に見直しを図り、前年踏襲とまらない実施内容の改善や変革、実行委員会などの生徒の運営の指導・支援を行った。</p>	<p>①・新教育課程の「単元の指導と評価の計画」を作成し、新学習指導要領に基づいた授業を展開し、学力向上・進路実現につなげる。</p> <p>・新旧課程が混在する過渡期に入るため、適切な教育課程の運用と教員への理解の深化が重要である。</p> <p>・教科担当による指導の方法や指導内容の違いが生徒から指摘されているが、教科内、教科間での情報交換を密にすることで互いに学び合い、さらなる授業改善につなげたい。</p> <p>②社会性と協働性を育成し、協働することで生徒が互いの力を発揮し、高め合える環境や場を創出していく。</p>	<p>①・新教育課程の本格始動へ向けて、教職員が一丸となって指導と評価の改善に取り組み、生徒の学習意欲と学力向上につなげることができた。</p> <p>・新旧教育課程の切り替え時期において生徒たちが混乱しないように尽力している。</p> <p>・分野横断的、総合的な研究の時間との有機的な連携や外部連携は、ホリスティックな視点を持つ人材育成に資するため大変評価できる。</p> <p>・課題発見能力、批判的思考力、学習意欲、協働性は、授業では全て融合した形で扱われることが望ましく、教師自らが課題発見能力を養いつつ、同僚と協働する中で実現することが大切である。</p> <p>②・オンラインでのパートナー校交流を生徒主体に実施継続するなど可能な限り企画力、社会性、協働性の育成を図っている。</p>	<p>・個性をより伸ばさせ、個に応じた進路実現を図るため、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて、課題発見・解決に向かう教科横断的な広い視野と深い思考力を育成する新教育課程について教員の理解を深めた。</p> <p>・「単元の指導と評価の計画」を作成し、新学習指導要領に基づいた授業を展開し、学力向上・進路実現をさらに推進する必要がある。</p> <p>・オンラインでの履修指導、学習指導などにより、生徒の主体的な学習と教員の効率的な業務運営を両立させた。</p>	<p>・評価と指導に関する研修を継続して実施し、新学習指導要領に基づく授業を展開していく。</p> <p>・1人1台PC端末の導入に伴い、個別最適な学びの実現に向けて効果的かつ効率的な学習活動の在り方を組織的に検討する。</p> <p>・課題解決力、批判的思考力、社会性、協働性の育成における定量的定性的分析を検討するなど、一層実効性のあるカリキュラムマネジメントにより確かな能力の育成を図る。</p> <p>・グローバル教育研究推進校としての取組を深化させるとともに教科学習、探究の時間をリンクさせ、社会で活用できる知識、思考力を育成する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・支援の組織的取組を推進し、たくましく生きる力の育成を図る。 	<p>①生徒のセルフマネジメント力を向上させる。</p> <p>②組織的な対応可能な体制を構築する。</p>	<p>③人権、防災等における問題解決の場面を作る。</p> <p>②出席状況把握等によりチーム学校として早期支援に取り組む。</p>	<p>①自らを取り巻く諸問題への関心・意欲が高まったか。</p> <p>②早期支援に取り組めたか。</p> <p>・SC等の活用は促進したか。</p>	<p>②教育相談チームと年次団が連携することによって、問題を抱える生徒の早期支援を行うことができた。</p> <p>・SC・SSWとの連携も積極的に行うことができた。</p>	<p>①コロナ禍において、講演会等の機会を設けることは少なかったが、HR等を通して人権・防災に対する関心を高めることができた。</p> <p>②年々問題を抱える生徒の数は増加する傾向が高かった。</p> <p>②教育相談チームと年次団が連携することによって、問題を抱える生徒の早期支援を行うことができた。</p> <p>・SC・SSWとの連携も積極的に行うことができた。</p>	<p>①人権、防災等の問題については、まずは教職員自身がその意識を高めていくことが重要である。我々の共通の認識の下、生徒たちの関心・意欲が高まるような働きかけをしていく必要がある。</p> <p>②年々問題を抱える生徒の数は増加する傾向が高い。担任が一人で抱え込むケースは少なくはなっているが、今後さらにチームとして生徒をサポートする体制を築き上げていく。また、SCについては、予約がほぼ埋まっている状況である。さらなる時間や人員の配置を要望したい。</p>	<p>①コロナ禍という制約の中、可能な範囲で人権や防災に対する関心を高める働きかけが行われている。</p> <p>②年々問題を抱える生徒の数は増加する傾向は、大学等でも共通である。コロナ禍では平時より問題点が見えにくくなった分、対処も難しくなった。SCの予約がほぼ埋まっていることは懸念されるが、逆に必要とされている証明でもある。一部の職員だけでなく、チームとして個々のケースを検討する定期的な仕組みの促進を期待する。</p>	<p>・コロナ禍という特殊な状況下でも、人権や防災等を含む社会規範が身に付けられるよう働きかけが行えた。</p> <p>・問題を抱えた生徒に対して、担任1人が抱え込むのではなく副担任・年次団・グループなど大きな枠組みの中で生徒を支援する体制ができてきた。</p>	<p>・引き続き、授業で行われる学問的な側面だけではなく、生徒たちが社会の一員として諸問題に関心をもてるように工夫をし、その意欲を高めていく。</p> <p>・教育支援については、さらにチームとして生徒を支えることのできる体制を整えていく。そのためには、教員側の意識のさらなる改革も必要である。</p> <p>・高い人格と心豊かな感性の育成を目指し、新たな生活様式を意識した行事の在り方を引き続き模索していく。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。 	<p>①目標実現までのロードマップ作成を通して、主体的な進路実現を図る。</p> <p>②予測不能な社会で、自らの進路を定め生き抜く力を育成する。</p>	<p>①進路行事の有機的関連を図り面談等を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新旧3年の情報共有研修を行う。 外部ツールを活用し模擬試験の分析を組織的に行って、教科指導の補強と個に対する支援を行う。 <p>②発達段階に応じた進路講演会、上級学校を知る説明会、学問探求のための講座等を開催する。</p>	<p>①進路実現に対する各進路行事の効果はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科指導の補強と個に対する支援が進路実現に活かされたか。 <p>②キャリアパスポート、アンケート等から、生徒が捉えた自己の変容を分析する。</p>	<p>①・3年間のロードマップを作成し、目に見える形で3年間の進路意識の形成および進路実現のためのアクションを意識させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 模擬試験等を通して外部分析ツールを用いて生徒の進路実現のための支援を充実させることができた。 <p>②進路説明会および外部招聘進路講演会を年間5回実施し、高大接続のための講座も20回以上開催することができた。</p>	<p>①・弱点補強や発展的学習のため導入している、学習ツールの活用率を向上させるための生徒向けのイベントや講演などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の発達段階に応じた面談に、模擬試験等の結果を用いることで、生徒の目標を更に明確にさせる。 <p>②・生徒の多様な進路実現のための様々な分野の情報提供方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学を知るための講座の参加人数を増加させる。 	<p>・目標実現までのロードマップの作成や、模擬試験の有効活用によって、3年間の進路意識の形成および目標の明確化を適切にサポートした。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも数多くの進路説明会、講演会、講座の開催を通して生徒の主体的な進路実現をサポートすることができた。 生徒の多様な進路実現のための情報提供を、ぜひ引き続き工夫してください。 大学を知るための講座への参加者は約120名であり、好評価であった。 	<p>・進路実現ロードマップを作成し、発達段階に応じた指導を適切な時期に設定した。また、模擬試験の結果と面談を関連付け、活用することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習ツールを活用した模擬試験の分析により、個々の強み及び弱点を明確にすることができた。また、出願指導においても有機的に活用することができた。 進路説明会を各年次毎に行い、進路意識を高めることができた。生徒の学問への興味関心を高めることにより、学問を知るための講座への参加率を高めていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が各種進路イベントに向けた意義を生徒に向けて発信していけるような働きかけをより一層していき、組織的な取り組みへと変化させていく。 分析ツール研修会を行うことにより、生徒への効果的な声掛けを実現させていく。 新入生について学問ごとの特色を学ぶ機会を設け、低学年からの自己の特性を意識させることにより、上級学校での学びを自分ごととして意識させていく。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 教育資源を活用し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。 	<p>学びにおける外部連携を推進し、思考力、判断力、協働性等を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間でフィールドワーク、意見交換等で外部連携し探究活動を深める。 特別活動では生徒が企画し連携するよう支援する。 進路指導、学習発表会、英語力活用などで連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部教育資源の活用は有効であったか。 外部連携により生徒の思考力、判断力、協働性等は高まったか。 外部連携により生徒は何を得たか。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間で、全生徒が外部資源を活用してフィールドワークを行うよう指導を行った。 パートナーズとの連携はコロナ禍において校内での活動を自粛してもらい外部施設やオンラインでの活動を中心としてもらった。また、AED保管ボックスの製作をしていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の取組内容に合わせたフィールドワークについて指導を行えるよう教員のスキルを高めていく必要がある。 パートナーズの活動や計画などの見直しを学校とどのようにして協働出来るか考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部連携により持続可能な社会の構築実現の重要なヒントになることから大変評価できる。 フィールド発表会での生徒達の幅広い自由な発想の活動発表は目を見張るものがあった。 校内での活動が満足にできないため地区センターなどを利用したり、感染状況によっては校内を活動の場として提供したりしてきたことで、相互の関係を維持できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間ではコロナ禍の制限下でも工夫しながら全生徒が外部資源を活用してフィールドワークを行うよう指導とサポートを行った。 外部との連携を図る以前に活動が安定せず計画を変更せざるを得なかったことが残念である。現状のコロナ禍で出来る活動やあらたな活動を模索し、保護者の学校に対する信頼を深められるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を始め、外部機関、行政機関等を有効活用し、社会とつながる機会を一層増やし分野横断的かつ実践的な活動内容にする。 パートナーズとのさらなる連携を深め学校としてパートナーズの協力を得ることで生徒に還元できるような発想と計画を考えていく。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。 	<p>①社会の変化に柔軟かつ迅速に対応し、教育力向上を図る。</p> <p>②校務の適切な効率化と協働を促進し、働き方改革を推進する。</p>	<p>①学校目標の評価を生徒の視点から検証する。</p> <p>②効果的なオンライン授業や適切な情報共有のあり方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日の教育活動を極力減じる。 	<p>①評価ツールを作成し実行・検証ができたか。</p> <p>②オンライン授業や情報共有は進んだか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当年の教育活動、次年度の計画が適正に組めたか。 	<p>①・「生徒による授業評価」、各行事後のアンケート等から把握した情報は、迅速に対応できた。</p> <p>②Chromebookを使用したオンライン授業やZoomでのパートナーズの運営委員会、またTeamsでの朝の打合せ等情報共有できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日での進路説明会を兼ねたクラス懇談会や翔鷗祭(文化祭)の延期などに対応した教育活動日の変更に迅速に対応できた。 夏期及び冬季休業日に閉庁日を設定し、働き改革に貢献できた。 	<p>①・数值的、経年的に検証できる評価ツールの検討を進める。</p> <p>②Chromebookのさらなる活用方法やソフトを通しての情報共有を進めるための研修などを計画する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間教育計画を策定する上で、既存の学校行事が今後も実施できるか検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なツールを活用した取組は高く評価する。 「生徒による授業評価」、各行事アンケート等の対応が迅速に行われ改革につながっている。 「生徒による授業評価」結果は公表され、概ね良い結果になっている。科目によるばらつきが出ており活用が望まれる。 ②式典(入学式・卒業式)で活用することで保護者への理解を深めたり、生徒との関係が疎遠にならないようにコミュニケーションがとれた。 コロナウイルスの感染状況による活動が低迷しないように年間教育計画を策定した。 	<p>①「生徒による授業評価」、各行事後のアンケート等から把握した情報は、迅速に対応し共有を図った一方で授業評価に多少のばらつきがみられた点について、各教科で改善に向けた取組が必要と思われる。</p> <p>②年度初めからオンライン授業や情報共有を進める中でChromebookの利用率や授業での活用がみられたのでないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中止となった研修旅行や集中講座など不確定な部分はあったが次年度に向けて適正に計画を立てられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台PC導入に伴い効果的なICT活用の研究を進め、職員研修も充実させたい。 社会の変化に柔軟かつ迅速に対応するための研修、組織的運営を確実に推進する。 ②式典でのオンライン視聴など十分とは言えないがそれなりに満足のいくものだった。今後、さらなるICTの活用をパートナーズに協力を求めながら私費の有効活用も提案していきたい。また、グループだけでなく広く教員が利用できるような手立てを考えていきたい。 行事が優先とならないような教育計画を考えていく必要がある。